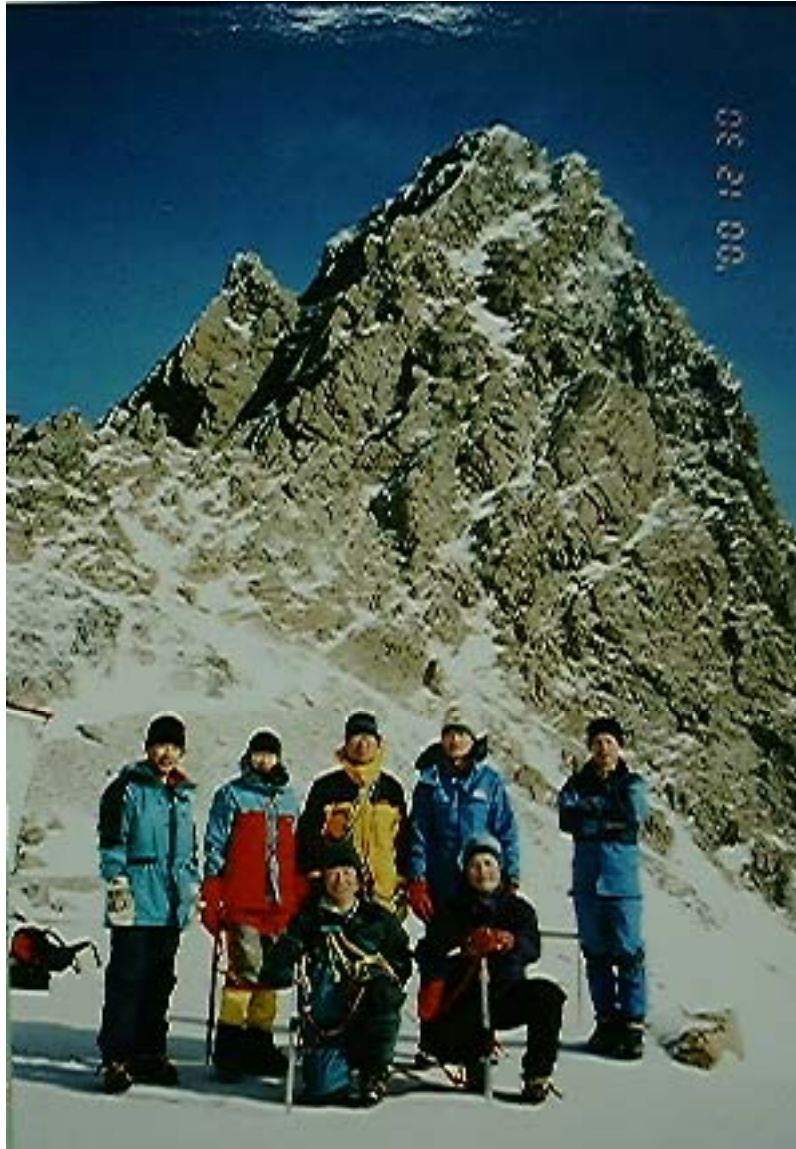


‘00 冬山合宿報告書

飛騨山脈

新穂高～槍ヶ岳

‘00.12.27～12.31



(先発隊)CL. 板倉, 亀山, 町田, 竹内, 塚本

(後発隊)CL. 森, 藤田健, 菅田, 浅田

デンソー山岳部

【冬山合宿を振り返り】

昨年、一部の部員から持ち上がった冬の槍ヶ岳山行を、レベル的に合わないとの理由から中止していただいた。そのような経緯から、部の冬山合宿として取り上げようということになり、総会からスタートし、取り組んできた。春の偵察を含め、計画が早くから打ち出されたこともあり、総勢9名とここ数年にない盛況ぶりであった。また、合宿本番も天候に恵まれ、最高の条件での登頂を果たすことができ、合宿を成功させることができた。只、全て満点ではなくいくつかの気になる点もあり、今後のため以下に挙げてみた。

- (計画) 総会から冬山合宿は、槍ヶ岳と決定し取り組んできたことから、スムーズに運んだ。今後も3ヶ年計画は無理としても、年初に冬山の目標は必要であると考え。しいては、それが、安全登山につながると考えます。
- (偵察) 今回、11月初旬に偵察山行を実施したが、あいにく雪が全く無いことから、雪の状態を知ることができなかったが、中崎尾根の観察がしっかり出来、合宿に役立った。欲を言えば、数回に分けてでも合宿参加者は、各自が偵察を行って合宿に望む位を希望したい。
- (訓練) 毎年12月の第1土日の御岳での雪上訓練を実施しているが、今回、リーダ自身も参加できず、竹内、森といった経験の少ないメンバーの雪上技術の把握ができていなかった。そのため、安全と不安全の境界がはっきりせず、怖い思いをした。そのような意味でも、新人、ベテラン問わず直前に雪の上を歩くを基本とし、各自の実力を把握する必要がある。今後もデンソー山岳部としては直前の雪上訓練は必須としたい。
- (行動) 若手の参加の少ない中、合宿への意気込みの高さからか、ベテランの活躍が目立った。その反面、いつも通りに参加して結果を出せない人もいたように思う。リーダの希望としては、体力、技術、精神力、テント内での行動etc. 今回の合宿ではこの部分が伸びた。ということを感じたいのである。今後は、自分がどの部分を伸ばしたいか意識して、参加してほしい。
- 今回、耳に中度の凍傷を受けた件は、まず本人が風から体を保護することを怠ったこと、また、さほど厳しくない状況から、メンバー間のチェックを怠ったことを今後の反省としたい。(特に、新人には最初にしっかり指導すること)
- (ルート) 春、偵察山行を通じて、ポイントは4つと考えていた。
中崎尾根へのルートを安全で、効率良く上がること
ジャンクションピークへのルート(雪崩の危険性)
肩の小屋手前の急斜面(雪崩の危険性)
槍の穂先の処理(滑落)
- 結果、例年にない小雪のため、難なく行動できたが、年始のようなドカ雪直後では、おそらく登れなかったと推測する。そのような状況での判断力も今後は、養っていく必要がある。
- (備考) 近年携帯電話の普及から通話エリアも拡大し、(ちなみに最近、新穂高ロープウェイの山頂駅にアンテナが設置されたいい)槍ヶ岳の頂上でも通話が可能であった。
トランシーバの通信性能を考えると、非常用の装備として1台必要な時期かもしれない。

最後に、留守部員の方々をはじめ、差し入れをいただいた方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

【行動記録】

【12/28(水)】曇り時々雪
【コースタイム】

- 7:18 新穂高
- 8:33 穂高平手前
- 10:30 白出小屋
- 13:10 滝谷出合
- 15:25 槍平

前夜、高山駅で仮眠をして朝方5:30頃タクシーにて新穂高へ向かった。雪がサラサラ舞う中を1時間20分程で新穂高温泉に到着した。人が少ない中で出発準備をする。天気は曇り時々雪である。7:18分出発した。林道は雪に覆われていてまともに歩けば膝まで雪に埋まる程だが、幸いトレースが付いていて、靴が隠れる程度ですんだ。1ピッチ半で穂高平に到着。さらに林道終点の白出小屋に着いたのは、10:30で出発から3時間程かかった。ここから先は登山道で道が狭くなっているので慎重に歩いていく。

白出で単独山行の中老年登山者と出会う。昔はいろんな山を登ったと聞く。マイペースで登っているが自身たっぷりに見えた。白出から槍平までは勾配がきつくなり、歩くペースがやや落ちてきた。滝谷に到着したのは13:00頃になった。「槍平までもう一息である」と言う気持ちになる。大休憩をして再び歩き出す。2ピッチでやっと槍平に到着することができた。小屋にはすでに先客が居たので、小屋のすぐ横にテントを張ることにした。テント場は雪が膝まで入る程に積もっているが、テントを張るのに程よい感じである。天候は曇りで、風もないのでテントの張り綱はピッケル4本で止めるだけになった。さっそくテントの中に入ってくつろぐことになった。新穂高温泉から槍平まで8時間余りかかった。トレースのおかげでラッセルもなく、天候も時々雪がぱらつく程度でこれだけかかったのだから、新雪のあとに歩いていたら、さらに時間はかかっていたと思う。1日目の今日は、予定していた場所まで進むことができた。明日は4時起き予定もあり、午後8時には寝ることになった。

報告者所見 4.5人用テントで5人寝るのはきつい感じがしたが、冬山では保温力の面では隣と引っ付いているので、寒さをしのぐにはよかった。冬の槍ヶ岳に来てよかったと思った。槍平はテント場として安心して張れる絶好の場所である。

(竹内・記)

ってツウ竿、ウ\$は * iWH* 玖嵯 としと父 j ある。1X x ￥繹 Y i

【12/29(木)】 晴れ

- 4:00 起床
- 6:00 出発
- 7:00 尾根取付き(2100m)
- 8:00 ~ 8:15 尾根(2200m)
- 9:00 ~ 9:50 中崎尾根(2350m)
- 10:50 ~ 11:05
- 12:15 ~ 12:45 千丈沢乗越
- 13:45 ~ 13:55
- 14:30 テント着

4時に起床すると、内張りが霜で真白になっており、結構冷えている。

朝食を済ませ、パッキングし、トレースは有るがわかんを付け、槍平を6時に出発する。

積雪は1メートル位あるが風はなく、満天の星である。

谷通しのトレースをリーダの板倉君を先頭に歩いて行く。

ゆっくり1時間程行き、左手から標高2100メートルへ中崎

尾根から派生している樹林の枝尾根にさしかかり、この尾根に取付く。踏まれた道からいきなり腰位のラッセルであ

り、リーダ | そPが多 * コに燗を湊菱。尾根の7 & 中な㊦テを手。 Y る h * h. に l 艦フ ノhルか、

ある。Yeが x. - * が 、 ㊦ I ツ O k s < 中崎 尾根に が . には㊦尾根

千丈沢乗越へは、ジャンクションピークからの岩陵の右側の這松を、直登するが、なかなか急である。相変わらず快晴であり乗越からは、鷲羽岳・水晶岳・野口五郎岳 遠く 針ノ木岳・鹿島槍ヶ岳までも見渡せる。正面には大喰岳西尾根が岩陵に雪を纏い飛騨右保谷へと降りており、数名の登山者が登っているのが小さく見えている。

リーダーの、今日は槍ヶ岳登頂は時間的に無理との判断により、テントへ戻る事となる。下りは、急な這松ルート避け、夏道ルートを取る。このあたりは積雪もそう多くなく、難なく中崎尾根上に出、往路を辿り、14時30分 塚本先輩に出迎えられ、テントに帰着する。途中 Bパーティー(後発)の菅田氏より携帯にて、『槍平へ着いた、今日はここに幕営する』との連絡を貰う。夕食後、美味しいウイスキーを飲みながら、山の歌に時間を使う。空は降る様な星で埋め尽くされており、明日の槍ヶ岳アタックを歓迎しているかの様にさえ思えた。

(亀山・記)

【12 / 30 (金)】

テン場：無風快晴

3:30 起床
5:10 発
6:15 J/C基部
7:15 分岐
7:30 アイゼン着
8:45 山荘
9:50 槍ヶ岳
10:40 山荘
12:00 分岐
12:20 J/C基部
12:30 アイゼン脱
13:15 テン場着
13:50 撤収発
14:35 槍平着

天候状況から本日午前中勝負とのCL判断から、タイムアウトなしの登頂を考えて 3:30起床、5:00発でスタートする。テン場周辺は無風快晴であった。昨日のトレースに積雪はなく、快適に歩ける。1ピッチ途中で竹内の懐電が切れる。西鎌分岐に上がると、さすがに風が強目出帽を深くする。ここで、アイゼンを付けて槍の肩に向かう。ふりかえれば笠ヶ岳のモルゲンロートが美しい。アイゼンの良く効く雪面をがに股で竹内が苦しうに登る。トップの板倉はセカンド待ちで終始岩陰や風下に顔を向けて強風を避けていた。山荘前の風のない広場で槍の頂上から下るパーティをテルモスのお茶を飲みながらゆっくり待つ。

槍の登りは、春とちがって氷もなく慎重にこなせば問題なかった。山頂からは富士山をはじめ四方の山々を望めた。風が強く長居は無用である。下降ルートをザイルなしで慎重にくだる。山荘前で休んでいるとBパーティーが登ってきた。

槍平からの強行でつらそうだが山での再会がうれしい、槍をバックに記念撮影し下山する。J/C基部でアイゼンを外し、塚本の待つACに急ぐ。年始のご来光目当てパーティが中崎尾根からも数パーティあった。ACを撤収して槍平に下る。ラッセルで苦労した登りもつかの間であった。槍平はテントも増えてにぎやかである。Bテントの隣に設営したころBパーティーも帰ってきた。

西鎌J/Cへの登りで亀さんと話した「こんどは大喰西尾根から行ってみたいな、」を考えながらウイスキーをかたむけた。

(町田・記)



槍平にて

竹内の右耳
肩への登りで竹内の右耳が寒風に吹かれて軽い凍傷になった。彼の大きい耳が更に大きくなった。福耳なら好いが凍傷ではいただけない、自己防寒の方法が課題となった。

12/28 天候不明

19:00丸田町P集合
神岡菅田邸泊

【12/29】天候

6:00 起床
7:00 菅田邸発
8:10 新穂高温泉発
9:30 穂高平 休
10:45 白出小屋 休
12:00 休(交信)
13:20 休
14:10 槍平 着
15:00 テント設営完
20:00 就寝

12/28 19時会社終業後、丸田町Pに集合。最近かなり冷え込んでおり、28日もかなり気温は低い。これまでの天候は今一つ良く無く、山は雪であろうと思われた。国道を使い深夜12時頃神岡の菅田邸にお世話になる。

初日に向け暖かい環境で体力を温存できるのは本当にありがたい。(菅田さんありがとうございました)

12/29 いよいよ初日。夜明け前に菅田邸を後にしたが、歩き始めは8時を回ってしまった。しばらくだらだらした林道に行く。天候は晴れ。絶好の天気であり、今日山頂アタックするAパーティーはなんと運がいいのかと話しながら進む。林道には少ないとはいえ、それなりに積雪もあり、今後に思いをはせると気が引きしまる。9:30穂高平小屋にて少し長めの1ピッチ目を刻む。なお林道を進み10:45白出小屋で1本。これまでに数パーティーに抜かれたが休憩で抜かず。

ようやく山道に入る。春はデブリを超えるのが難儀だったが今回はほぼ夏道沿いに歩けるようで助かる。もちろん先行パーティのおかげでラッセル不要。12:00休憩時交信を試みるが通じず。なお歩くが、ここに来て先行パーティにドンドン追いつく。ペース配分の問題らしい。13:20もうじき槍平であろうと思われる、少し見通しの開けたところで休憩。今日中崎尾根上がるのは無理かも…との空気が広がる。見上げると見事に晴れた空に中崎尾根がくっきり見える。つくづくAパーティーがうらやましい。もうひと頑張りすると槍平についた。皆結構疲れている。やはりもう中崎尾根は無理。槍平には既に10パーティほどおり、なかなか賑やかである。設営後、携帯で(!)Aパーティーと連絡後、無線つなぐ。皆元気な様子で明日の合流が楽しみである。我々は明日空身でピストンすることに決定。夕食時に中研のパーティと合う。明日は大喰をのぼるらしい。互いの安全登山を祈りつつ、明日の好天を期待して床に就いた。

(感想) いつになく易しい初日でほっとした。まずは一安心。

(森・記)

【12月30日(土)】天気 快晴 起床3時半

槍平 5:12 中崎尾根取付 5:52 休憩(6:00~6:10) 尾根上(A隊のテン場)6:45
休憩(7:00~7:20)ジャンクション基部(8:20~8:30) 千丈沢乗越 9:20
休憩(9:40~9:50) 肩の小屋(11:00~11:30) 槍ヶ岳頂上(12:00~12:05)
肩の小屋(12:45~13:00) 千丈沢乗越 13:40 大喰岳西尾根取付(13:04~13:18)
槍平 15:05

3時半、森君の目覚ましで起床する。昨夜は風も無くテントが揺れないので寝やすかった。テントより外を見ると満天の星が輝いていた。朝食の雑炊を作り、準備を整えてテントを後にしたが、5時12分だった。懐中電灯を点灯して雪道を歩く。トレール以外は行けないので迷うことは無い。冷え込みはかなり厳しく手の指先が痛い。A隊が取り付いた夏道より5本目の枝尾根に取り付いたのが5時52分だった。少々ピッチが早いかなと思う。

尾根はかなりの傾斜で、A隊は昨日ラッセルして登ったようで苦労が偲ばれる。我々は道が付いているでかなり楽だ。6時半頃には明るくなり、懐中電灯が要らなくなる。先行しているA隊の姿を中崎尾根に求めるが見つからない。中崎尾根に6時45分に這い上がると、すぐ横にA隊のテントがあった。声をかけると中から塚本さんの声が返って来た。塚本さんは胃が痛く体調不良のため大事を取ってテントキーパーらしい。塚本さんにA隊の出発時刻を聞いたら我々と同じ位の時間であった。

中崎尾根からは、笠ヶ岳、抜戸岳、乗鞍岳がモルゲンロートに輝き清々しい朝である。滝谷は暗く、ドームがシルエットとなっている。目指す槍ヶ岳の姿も見えてきた。A隊のテントより15分進んだ所で槍穂連峰を眺めながら休憩する。ここで藤田さん以外3人はアイゼンを着ける。行動食を食べたり、写真を写したりして20分程過ごす。大喰岳西尾根に4～5パーティ取り付いているのが見えるが、中崎尾根は今の所我々だけのようだ。中崎尾根は小さな登り下りが続き、結構消耗させられる。A隊の姿を千丈沢乗越に見つける。2ピッチ程先行しているようだ。

ジャンクションピークの基部で小休止。飛騨沢から吹き上げる風が冷たい。風向きが南か距・驍7で、
天気が少々気になるが、今日一杯はもつだろう。西鎌尾根は時々雪煙が上がっているの、風がかなり吹いているようだ。A隊は岩峰を越えて、姿が見えなくなった。もう少しすると肩の小屋に着くだろう。千丈沢乗越目指して浅田を先頭に急登を登る。9時20分乗越に這い上がる。予想通りの風で、右手と右顔面が痛い。登っている途中で取材のヘリが飛んで来て、槍ヶ岳を中心に何度も旋回していた。乗越と岩峰の中間位で小休止。寒くて行動食も出せない。岩峰附近は、堅雪となっていてアイゼンがピシッと効いて気持ちが良い。途中で10時の交信をするべく、森君がトランシーバを出し呼掛けるが応答なし。全員へとへとになって11時に肩の小屋に着く。菅田さんが冬季小屋に入ろうとしたのを制して、風が当たらない小屋の前に回り込むとA隊の4名がいた。早速お互いの無事を確認し合う。A隊はちょうど槍の穂先から降りてきたところだったそうだ。テルモスに入れてきたココアが美味しく腹にしみわたる。寒い時に暖かいものは非常に美味しく持ってきて良かった。写真を取り合ったり、今までの行動を話したりするうち、30分が瞬く間に過ぎる。

穂先から誰も下っていないのを確認して空身で頂上の登りにかかる。森君を全員でサポートしながら登ること30分。12時ちょうどに槍の頂上に全員登頂する。360度の眺望に良いタイミングで入山出来た事に感謝する。遠く富士山まで見える。風が冷たく寒いので、写真を撮って早々に下る。下りも登りと同じ時間がかかり、肩の小屋に着いたのが、12時45分だった。中研の中山さんパーティに出会う。今から穂先の登りにかかる所だった。A隊にトランシーバで無事穂先から下ったことを連絡して、しばし休憩する。

13時ちょうどに下山にかかる。天気も今日までらしく、遠くに雲が湧いてきた。西鎌尾根を登って来るパーティが増え、6～7パーティとすれ違う。千丈乗越まで40分程で下る。登りは1時間40分かかったが、下りはアツという間だった。基部より飛騨沢をトラバースして大喰岳西尾根の末端にて休憩する。A隊もテントを撤収して槍平に向かって下っているのが確認できた。空には薄雲がかかり今夜か、明日には荒天になることを告げていた。後は飛騨沢を下り、槍平のテント場に着いたのが15時05分だった。約10時間に及ぶ行動でかなり疲れた。A隊はテントをちょうど張り終えたところだった。心配した塚本さんの状態もかなり良くなりホッとする。

夜は青島からの差し入れ、持参したウイスキーを飲んで祝杯を挙げた。

(浅田・記)

【12 / 31】 (曇り後雨)

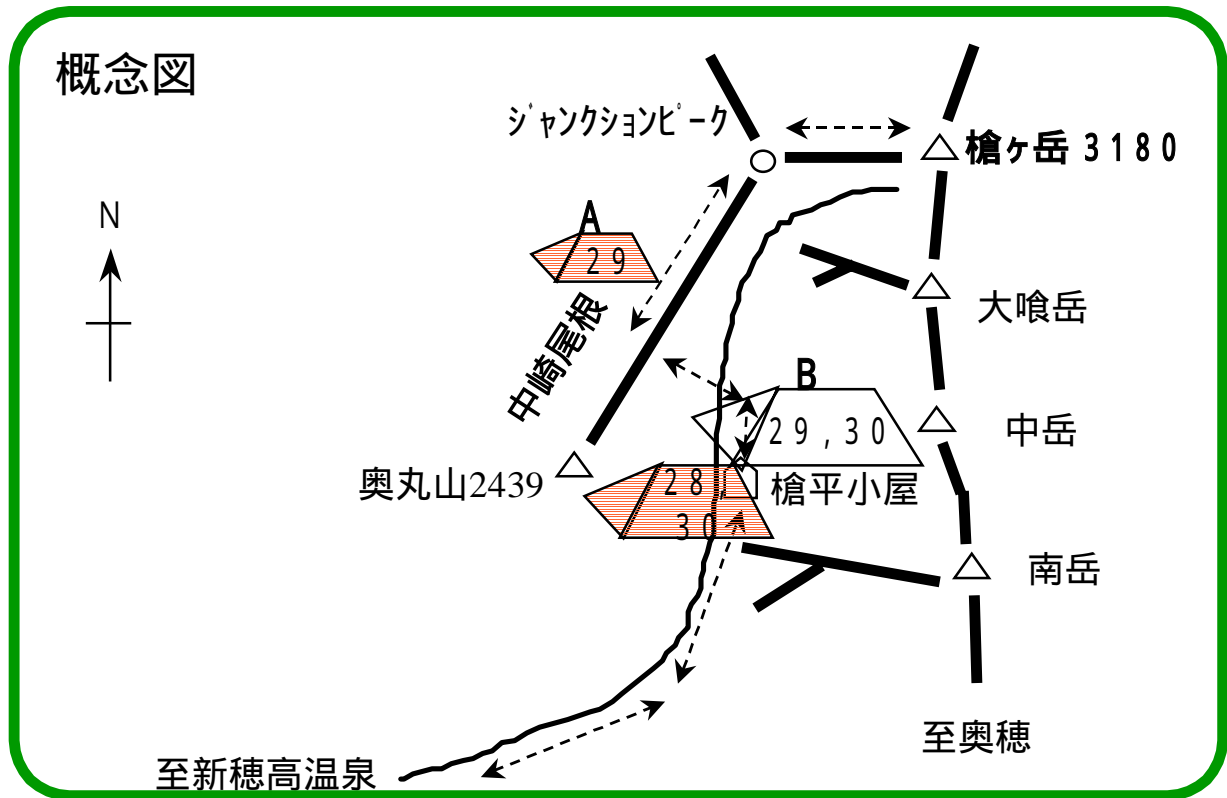
5:00	起床
7:10	槍平出発
8:10	白出沢手前休憩
9:10	穂高平小屋
10:50	新穂高温泉

昨日までの天候と打って変わり、雪雲が低く垂れ下がっているが登りと同じルートは踏み固められ難く下山を開始する。穂高平小屋からは林道を外し旧登山路に入ったが、所々でがけ崩れを起こし歩きにくい、通常は林道を忠実につめるほうを採用したいところである。新穂高のバス停に着くと同時に雨が降り出し、リーダーの判断で出発を早めたのが幸いした。尚、ここでアイシン精機の横田氏とバツリ顔

を合わせお互いの健闘を確認しあった。最後に、無料温泉で汗を流し、帰路に就いた。後日談ではあるがまさか、われわれが下山後大雪による遭難事故が発生しようとは夢にも…の心境であった。

(藤田・記)

概念図



【装備について】

(A隊)

全体的には軽量化で無駄の少ない装備となった。

燃料はホワイトガソリン 1.5リットル

EPIガス370g × 2個

以上持参したがホワイトガソリンをBパーティーから0.4リットルもらった

EPIガスは40g残った(中身の重量は満タンで230g)

EPIガスは初の試みだったが、火力が弱く感じた

(コンロによってカロリーが違うのでコンロの選定が必要)

ガス缶1個で2時間使用できる

今回のカートリッジ使用状況

12/28 夜 30分

12/29 朝 50分 夜 20分

12/30 朝 20分 夜 180分

保温目的でも使用したので最低必要量がつかみにくかった。

カートリッジの利点はコンロを含めて軽量化できる点である。

しかし、冬合宿のように火をよく使うときは、メインはブスがよい

(反省) シャもじをなくしてしまったのは失敗であった

片付けでのチェックをしなかったのがいけなかった。

(B隊)

B隊の共同装備については特に問題なし。今回ガスコンロを12/30の朝、夕、テスト的に使用したが火力もあり良好であった。

4人分の朝食、テルモスに入れるお湯沸かし、夕食時のお湯沸かし、暖房、に使用した。

時間は全開にした状態に換算すると1時間くらいと思われる。ガスは3/4くらい使用した。

利点は、すぐ点火できるので、こまめに点けたり、切ったりできること。

欠点は、ランニングコストが高いこと。

【気象】



天気の変化

- 12 / 28 雪が降るが、視界は中崎尾根が見える程度でさほど悪くない。
/ 29 高気圧に覆われ、快晴。風も無く穏やか。
/ 30 快晴で始まるが、風強し。日本海に入ってきた低気圧と前日の天気図で現れた、等圧線の変化している部分(南岸沿い)に低気圧発生し、午後は曇り
/ 31 滝谷出合を過ぎるころより、雪が降り出す。新穂高では、曇交じりと変わり、飛騨地方は、終日雨。刈谷へ帰ると雨は上がっていたが、風の強く冬型となっていた。



各地で豪雪による雪崩、身動きが取れないため、ヘリでの救出が相次いだ。
12 / 31 低気圧が北海道沖に抜けた以降冬型が続いている。